

はたらく部会

【 テーマ 】

障がいのある人の意思を尊重し、地域の中で生き生きと働き、生活していくことを目指す。

部会長	しょう×ちくま
副部会長	いなりやま共同作業所
	千曲市役所福祉課
	坂城町福祉健康課
事務局	千曲・坂城基幹相談支援センター

1. 年間目標

- ・「個々の課題=地域の課題」と捉え、部会を通じて情報を共有していく。
- ・地域課題をひろいあげ、必要に応じて検討等を行い、具体的な実践につなげていく。

2. 活動状況

日時	会場	人数	主な内容
第1回 5月22日	千曲市ふれあい福祉センター	23	<ul style="list-style-type: none"> ・各所属から自己紹介と今年度年間計画について ・養護学校より今年度3年生の進路状況について ・令和6年度報酬改定について ・ハローワーク篠ノ井から障害者雇用状況について等
第2回 7月17日	千曲市ふれあい福祉センター	23	福祉就労から一般就労へ 千曲市社会福祉協議会 戸上デイサービス介護福祉士の 宮本晃さんに依頼し、不登校や引きこもりから福祉就労事業所に通所し一般就労出来た経緯をお聞きした。
第3回 10月23日	千曲市ふれあい福祉センター	22	初企画 事業所職員交流会 地域の福祉就労事業所にて支援をしている職員が集まり、それぞれ抱えている課題や悩み、他事業所での支援方法等をざっくばらんに語り合い、事業所間の横の連携や顔が見える関係づくりを行った。
11月1日 地域連絡会と共催の勉強会	千曲市ふれあい福祉センター	29	令和7年10月から始まる「就労選択支援」勉強会 講師：一般社団法人 しょう 事業部長 上野 隆一 氏を講師に迎え、来年度10月からスターする就労の新サービス「就労選択支援」についての勉強会を行った。
第4回 1月30日	千曲市ふれあい福祉センター	15	<ul style="list-style-type: none"> ・11月の全体会での物販の反省について、秋以降の開催された就労関連の研修会の報告 ・今年度の振り返りと次年度の計画等について ・今後就労に関する国・県の動向について部会長より報告

3. 総括

◎福祉就労から一般就労へ

障害福祉計画の中では福祉就労から一般就労へ移行の数値目標が明記されている。以前より部会の中で「実際に福祉就労から一般就労した方の話を聞きたい」と要望が出ていた。不登校や引きこもりを経て福祉就労B型事業所へ通所し、そこから一般就労に結びついた千曲市社協の介護福祉士 宮本晃さんに一般就労までの道のりをお話いただいた。

近年、就労継続支援B型事業所から一般就労に結びつく人も徐々に増え、部会員からは「直接一般就労出来た人の話が聞けて良かった。一般就労に向けて運転免許や資格取得等参考になった」「家以外の居場所や相談先が大切と感じた」「もっと大勢の人に聞いて欲しい」等の感想が聞かれ、中には宮本さんのお話に涙を流す方もいた。

◎福祉事業所職員交流会

福祉就労に携わる事業所職員らが集い、現在抱えている悩みや事業所の課題等をざっくばらんに語り合う「事業所職員交流会」を今年度初めて開催した。（参加者22名中、就労継続B型事業所職員15名、その他：就労移行支援事業所や行政職員、基幹センター職員等参加）

各事業所から活動紹介や就業、休憩時間、工賃額等を聞き違いに驚いたり、どの事業所でも抱えている利用者高齢化問題やトラブルになりがちなSNS問題、自主製品の販路拡大等の共通課題や悩みに共感する姿が見られた。「良い支援方法があれば教えて欲しい」「うちではこんな支援をした」等、成功事例を教え合う光景も見られ、終始和やかな雰囲気のなか事業所間同士の横の繋がりも出来た交流会となった。

◎令和7年10月スタートの新サービス「就労選択支援」勉強会開催（29名参加）

県自立支援協議会の就労支援部会長で、「一般社団法人しょう」事業部長 上野 隆一氏を迎え、来年10月に施行される就労の新サービス「就労選択支援」の勉強会を地域連絡会と共催で開催した。

就労選択支援とは、新規に就労継続B形事業所の利用検討している障害者本人が、就労先や働き方についてより良い選択が出来るよう、就労アセスメントの手法を活用し、本人の希望や就労能力、適正等にあった選択を支援するサービス。上野さんからは、千曲坂城地域用にとわかりやすい資料にて説明頂いた。「就労継続支援サービス利用者は利用期間が長くなる程固定化されてしまうケースが多い。ハローワークやナカボツ等、多くの就労関係機関と連携し本人の立場に立って次のステップを支援していくが、「実際に業務を行う事業所はあるのか？」「採算は取れるのか？」等の不安や課題は県内どの圏域からも出ている。千曲坂城地域の特性に応じた就労選択支援について皆さんで考えて欲しい」とお話いただいた。

◎その他

○「優先調達ガイドブック」を作成

各福祉就労事業所にご協力いただき、コロナ禍以降5年振りに作成した。早速、行政より清掃業務等の施設外就労の依頼が来た。*ガイドブックは各事業所には配布済。

○児童から者へ障がい福祉サービスが切り替わる際の「18歳の壁問題」について、各就労事業所にアンケートを実施。「手厚い児童のサービスから者の就労サービスに移行した際にどんな課題があるか？」との質問に、「生活リズムづくりが大切」「通所が継続出来ない人の中には働く意味や目標が見い出せない人もいる」「仕事場での言葉使い等は家庭でも気を付けてもらおうとありがたい」等の回答があり、子ども部会と共有した。

4. 次年度に向けて

◎令和7年10月施行の就労系新サービス「就労選択支援」について

就労アセスメント手法を活用した「就労選択支援」が令和7年10月より始まる。国や県の動向の情報については養護学校や就労支援事業所、他部会等と共有する。就労の多機関との連携を強化していきながら、地域の実情に合わせたサービス提供ができるように体制整備を行う。

◎「就労事業所交流会」について。

次年度は就労支援事業所だけでなく、養護学校や他の就労支援機関の方達等にもご参加頂き、「障がい者の就労の課題」について意見交換を行いたい。意見交換や交流会を通じて見えてきた課題については部会内にて共有や検討し、課題解決に向け話し合いを行い、必要に応じて地域連絡会にも報告をする。

◎事業所見学会について

事業所交流会開催後のアンケートや部会で、「他事業所についてお聞きしとても勉強になった。色々な違いにも驚いたが、ぜひ事業所を見学したい。箱折一つ取っても支援が違う、見学して参考にしたい」と声が上がったため、令和7年度は事業所見学会を開催する予定。意見交換や交流会を行った昨年を引き続き、令和7年度は支援員同士の関係性づくりや事業所間同志の連携を図る。